

次第

■ 1. 開会

■ 2. 委嘱式

■ 3. 議題

(1) 文化振興計画の進捗状況について

ア. 庁内における取組み

- ・基本目標、資料Dに基づき令和2年度の庁内における取組みについて説明。
庁内関係課は30課、当初計画事業数は83事業、このうち新型コロナウイルス感染症の影響で全てが中止になった事業は21事業。
新規事業は2事業、都市計画課の「公共サインガイドライン事業」と、企画課の「市制施行100周年記念事業」。
- ・文化に関わる事業費の総合計は約214,130,000円。前年度より95,486,000円減。
新型コロナウイルス感染症の影響で事業が中止・縮小になったことが影響している。
- ・資料2に基づき各基本目標本数について説明。
- ・資料3に基づき岸和田市まちづくりビジョン達成状況について説明。令和2年度はA、B共に新型コロナウイルス感染症の影響で達成ならず。

イ. 文化施設（浪切ホール・自泉会館・マドカホール）3館の取組み

- ・資料A-1、A-2、B、Cに基づき令和2年度の浪切ホール、自泉会館、マドカホールの取組みについて説明。
浪切ホールは合計39事業のうち22事業、自泉会館は合計30事業のうち10事業、マドカホールは合計16事業のうち4事業、が新型コロナウイルス感染症の影響で延期又は中止。

ウ. 文化団体による取組み

- ・資料4に基づき令和2年度の文化団体による取組みについて説明。

(委員) コロナに文化がやられているように感じている。

文化が廃れていくような、人と人との繋がりがだんだん希薄になっていくような気がする。こういう状況だからこそ、文化というものをどういう形でつたえていくか、元気になっていくかが大切だと思う。

岸和田市の基本目標はすばらしい。一つ一つが大事なこと。だが、実際には実現できていないのではないかな。

コロナが流行する以前は、ドラマスクール・少年少女合唱団・岸和田市音楽団等の育成団体が活発に活動していた印象がある。

基本目標に記載のあるブックスタート事業は、実施されているのか。

(事務局) ブックスタート事業は、図書館で実施している事業であり、令和2年度もコロナ対策を行いながら実施した。

(委員) 伝統行事だんじり祭りの継承の支援として助成を行っているが、これは岸和田市から保存会を通して行っているのか。

(事務局) ご指摘のとおり、保存会を経由している。

(委員) 祭りが実施されていなくても、助成を行っているのか。

(事務局) 1年を通じたの保存に関する経費となっているため、祭り実施の有無に関わらず助成を行っている。

(委員) 文化振興基金の活用について、具体的な金額、資源確保の方法について教えていただきたい。

(事務局) 現在の手持ち残高は2千万円を超えている。内訳としては現在までの積立、利子、その他マドカホール敷地内に設置している自動販売機の設置業者との年間契約金額のうち2割を積立し、令和元年度からは、浪切ホールにネーミングライツを導入しており、この契約金額の半分も積立している。

基金の使用方法については、ソフト事業に活用することが望ましいと考えるが、文化施設それぞれの建設年数がかなり経過しており、主に修繕関係に活用していくことが多くなっている。

(委員) コロナが流行している状況の中、感染者を一人も出していないということは、大きな成果だと感じている。色々なことを兼ね合わせて事業を実施しており、今年を含めて事業減少を慣例としない、またコロナが収まれば文化の事業を実施すればいいと思う。

(委員) 場所がなく、人が集まらないという期間は苦しかった。自泉会館でも、人数制限等を行いながら、感染者を出さないようにするというのは大変だったが、その代わりに面白い現象があった。アーティストの方々が、SNS等で配信をする場所として自泉会館を借りていただけるとい、新しい展開をみられた。そのおかげで音楽ホールとしてみなさんに紹介してもらえ、広く映像で見ただけだったというのもよかった。

若い人達はYouTubeやSNSなどに助けられていたように思う。発信の仕方をみていると、若い人達はいろいろなことを工夫しているなという印象が残った。

コロナも苦しかったが、新しいものを見ることができたなどポジティブに考えるところもある。今年度なりに、悪いところ良いところがあったのではないか。

(委員) だんじり祭りの保存継承の支援のお話があったかと思うが、山手地区だけでも祭礼町会が13町ある。例年は3~4回程度しか会議を行わないが、今年は1日でも曳くことはできないかと何度も議論を行った。それぐらい泉州地区の方々は祭りが好きなんだと感じた。

(2) 今年度の文化振興事業について

資料5に基づき令和3年度の文化振興事業について説明。

1-1 企画事業のうち、第72回岸和田市市展、第72回岸和田市市展受賞作品展、第34回マドカ合唱祭は新型コロナウイルス感染症の影響で中止。

マドカ合唱祭が2年連続中止になり、中学生たちの舞台に立つ機会が失われたため、舞台に立つ機会を設けたいと考え、中学校合唱部支援事業inマドカ合唱祭として事業を企画。中学校5校の参加があり、無事実施することができた。

2-2 チャレンジ支援事業は、コンクールに参加するクラブ活動団体に対して舞台を提供している事業。本来であれば、生の舞台上でのコンクールに対するリハーサルの支援だが、令和2年度に関しては新型コロナウイルス感染症の影響もあり、舞台上ではなく、収録した映像での審査となったことを考慮し、収録でのコンクールも可とした。

(3) 中間報告について

資料6に基づき平成27年度から令和2年度までの中間報告、今後の目標について説明。円グラフ平成27年度Iと令和2年度Iの差については、平成30年度より各市民センターに入っている図書館分館の業務が民間に委託となり、分館が行っていた事業が全て本館に集約されたことが大きく影響している。なお、委託された後も変わらず分館での事業は実施されている。

基本目標事務局目標割合について、基本目標Ⅰは引き続き積極的に進めていきたいため少し増加、基本目標Ⅳは今後力を入れていく必要があるとして微増としている。

基本目標Ⅲは最も割合が増加したこともあり、現状維持をしていきたい。

自己評価事務局目標割合について、S評価は増加、B・D・空白を減少させたいが、まだ数年はコロナの影響があると想定し、S・Aを増加、B・Cを減少、D・空白をなくしていきたいと考えている。

(委員) 基本目標Ⅲ－7だけが平成27年度から0が続いているので、少しでも動きがあって欲しいと思っている。

芸術家が出て行っていることが多く感じる。岸和田市は文化豊かな町だったので、なにか歯止めがかかるような事業をして欲しい。

(事務局) この計画を策定する際、岸和田でどの程度のことのできるのかが未知数のまま計画している。芸術家の方々が何らかの形で活動しやすい支援であったり、アーティストインレジデンスを期待したもの。最近では日本各所で取り組まれているが、岸和田では遅れていると感じている。何らかの形では実現したいが、事務局として具体策というものができていない。

過去一点だけ、計画に近い活動であったかと思うものがある。

平成28年度に、丘陵地区で竹を使ったイベントを行った際、竹をメインに活動されているアーティストの方が静岡県から来られ、一ヶ月間程度滞在していただいた。また、竹というつながりの中で、岸和田にある自然活動をしている団体にもご協力いただき、当初団体の方々は竹と芸術ということに戸惑いを持たれていたが、アーティストの方との交流や物の製作を通じて、目に見えない繋がり・絆を感じることができた。団体にとっても、アートという切り口の中で、非常に有益な効果があったと感じている。このことから計画に当てはまる活動であったと考える。

計画期間中であるため、引き続き何らかの方法を検討していきたい。

(副会長) 文化と行政というと、行政側で何をどうしたらいいか難しい面があるかと思う。団体などから積極的に、行政へ提案していくこともいいのではないかと。諦めずに、提案して行ってほしい。

(4) 今後のスケジュール (案) について

資料7に基づき今後のスケジュールについて説明。

■ 4. 令和4年度市制施行100周年記念事業について

庁内全庁的に記念事業を開催していく予定。100周年記念ロゴ、ミニのぼりの紹介。

(副会長) いち早く、市民の皆様にもアピールや宣伝をしていただき、市全体を盛り上げていくということも大事かと思う。

記念行事100周年の式典をするなど、スケジュールはあがっているのか。

(事務局) 市制施行100周年の担当課が企画課になっており、現在各行事の調整を行っている。予算が伴うため、正式発表は3月議会の承認後となる。

一方、100周年に向けたカウントダウン事業を現在行っており、市民の方々、岸和田にゆかりのあるの方々、個人団体を問わず映像等でご協力いただいている。

既に公表されている事業の例として、来年5月ばらサミットがある。市の花がバラである日本国内の市町村が集まるサミットを行う会場として、マドカホールが使用され、翌日は中央公園で植樹祭が行われる予定。

その他、市内各種団体の協賛事業や冠事業を募集しており、それぞれの活動の中で、ご支援いただければと思っている。

■ 5. 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に向けた取組みについて

資料8に基づき新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドラインについて説明。

■ 6. その他

(事務局) 今後も計画の推進に向けて、反映させていけるよう努めてまいりたい。

(委員) 町会連合会では、100周年の話題は出ていないように思う。

11月だと祭り直後で難しいかもしれないが、大阪府で3番目に市制をひいたという非常に古いことを誇りにされるのであれば、だんじりを出すという話があってもいいのでは。

(委員) 個人的には100周年は大きな節目だと思うが、エネルギーが十分ではなく、あまり盛り上がっていないように感じている。

(副会長) 計画段階でもコロナの影響を考えて検討されているのだと思っている。

この期間、合唱の活動はなかなか難しかったのではないかと。

(委員) コロナが流行し始めてもう2年近く経つが、やはり苦しい。特に合唱は、飛沫が飛ぶということで、この状況でできることを色々検討した。

普段からマドカホールで練習させていただいているが、とても協力的に支援していただいた。そのうえで、自分たちに何ができるかを考え、3密を避ける、換気、人数制限、私語禁止を実施した。当初は1時間以内で声を出さず、基礎を鍛える練習を行った。保護者の方が怖がって、子どもを練習に参加させないことも心配していたが、通常の練習よりも参加があった。

今は少しずつマスクの中で声を出し、少し練習時間を延ばすなど、工夫をしながら活動している。

最近、和歌山で国民文化祭が開催され、合唱部門に出演した。遠征して歌いに行くというのはこの2年間で初めてのことだったので、子ども達がとっても喜んでいて。子ども達の喜びを肌で感じ、生の舞台に立たせてあげたいとひしひしと感じた。

SNSの映像配信も試みたが、如何せん半分が小学生であり保護者だよりになってしまうので、大変難しいと感じた。この状況で、大人が手助けできることは何なのかを日々考えている。

(委員) 岸和田文化連絡協議会ですが、去年は、会場の方から使用できないといわれることが多かった。2年続けて催しを全て中止にするのはと思い、今年は展示の部分だけ開催した。チラシも作成せず、お客さんも少なかったが、それなりに皆さん尽くしてやっておられ、開催して正解だった。

来年はどうしようかという話になった際、来年も開催したい、練習できていなくても舞台もしたい、ということになり次回の会場を予約している。

団体はそれぞれ色々な事を苦勞されている。

(委員) 岸和田文化事業協会では、文化の担い手がどんどん減っていることを悩んでいる。

アーティストバンクに登録のある若いアーティストの中には、自分で企画をだし、こういうことがしたいと言ってくれる若い方がいるので、これがジャンルを問わずもっと広がってくれればと思っている。

会員という形のとらえ方が、今と昔では少し違いがある。今はどうしてもお得感、自分のプラスになることは何かと考える。しかし、昔からの会員の方々は、このまま岸和田の文化の火を消してはいけないと思い、自泉会館を利用す

る機会が減っても、会費を納めてくださっている。そうした現状も、岸和田の文化が広がらない根本的な原因ではないか。

岸和田の文化方式を守って育てて運んでいくという理念を持って頑張っている市民団体ですが、文化を守りたい、若者の力になりたい、という方々を、もっと上手に集められる方法を考えていきたい。

100周年については、市が企画を考えるばかりでなく、各団体が自分の市のことを考えて積極的に意見を出すべき。市民が立ち上がらないと、盛り上がらないし、若い人達は出て行ってしまう。市との関係を活性化させることもとても大事ではないか。

だんじりにについても100周年実行委員会に提案していけば、すこし変わるかもしれない。

(委員) だんじりに関して、当然各町、地区によって賛成反対、出す出さないがあるとは思う。だが、その議論をすることによって青年団から子ども会も含めて、みんなの耳に100周年ということがこびりつき、地域の中で底上げができるのではないか。町会連合会の会議の場があれば意見を出してみようと思う。

自泉会館で活躍されている方から話を伺えて、とても勉強になった。事前配付資料の浪切ホールの自己評価欄が、とても上手に良く記載されていると感じた。

(委員) 他市のこども園に勤めており、毎日0才から5才の子ども達を見ている。岸和田市が就学前の子ども達に、幅広く文化に触れる機会を与えてくれているのは大変良いことだと思っている。ただ、人形劇の鑑賞、アウトリーチなどの単発事業だと、園に1回行ったら終わってしまう。その時は楽しいけれども、その気持ちをいかに持続させ、子ども達の成長に与えていくものがあるかが大切なことだと考える。予算の関係もあり難しいとは思いますが、いかに継続して子ども達に文化を与えていくかを、今後の1つの争点にしていきたい。

ブックスタートについても、もっと市民にアウトプットできる方法を考えていきたい。子どもが育つのは100年後、岸和田も育っていくということで、今後とも子どもに対する事業を広めていきたい。

あれだけの人が集まってだんじりを曳くことは素晴らしいが、できれば彫り物や、だんじりに関する歴史を、みんなに広められるようなことも考えていきたい。

(委員) ジャンルごとに、色々事情があると感じている。事業をするにあたって、主催者や事業者が一番内容を把握している。その人たちに委ねることがこれか

らも大切ではないか。

来年に 100 周年事業があるが、市が色々な事業を作って応募を集めることも大事だが、一般の市民の方々にとっては参加方法等が分かりづらいこともある。そういう方々が参加しようと思えるような事業の仕組みを作ってもらいたい。

(副会長) 本日は貴重なご意見、ありがとうございました。

■ 7. 閉会